

2022年2月28日 全7頁

Indicators Update

2022年1月鉱工業生産

幅広い業種で増産も自動車減産により生産指数は低下

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2022年1月の生産指数は前月比▲1.3%と2カ月連続で低下し、市場予想（同▲0.7%、Bloomberg 調査）を下回った。世界的な半導体不足に加え、国内での新型コロナウイルスの感染拡大による工場の稼働停止を背景に自動車工業が大幅減産となった。他方、半導体関連や前月に減少していた生産用機械工業を中心に幅広い業種で上昇が見られた。
- 先行きの生産指数は均して見れば緩やかな回復にとどまるとみている。半導体不足の影響もあって、自動車などの挽回生産を抑制するだろう。他方、感染拡大がピークアウトした欧米向けの輸出関連財が生産指数を下支えするとみている。製造工業生産予測調査によると、2月は前月比+5.7%（計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+0.7%）、3月は同+0.1%と見込まれている。ただし、同調査には複数の国内自動車メーカーによる追加減産の一部が織り込まれていない点には留意が必要だ。
- 3月8日公表予定の1月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲1.2ptの103.6、一致CIが同▲0.6ptの92.1と予想する。この予測値に基づくと、一致CIによる基調判断は機械的に「足踏み」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2021年							2022年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鉱工業生産	+6.5	▲1.5	▲3.6	▲5.4	+1.8	+7.0	▲1.0	▲1.3		
コンセンサス								▲0.7		
DIR予想								▲0.2		
生産予測調査									+5.7	+0.1
補正值(最頻値)									+0.7	
出荷	+4.8	▲0.3	▲4.4	▲6.1	+2.4	+7.4	+0.1	▲1.8		
在庫	+2.1	▲0.7	▲0.1	+3.4	+0.6	+2.0	+0.1	▲1.8		
在庫率	▲0.3	+1.0	+3.7	+5.5	▲0.6	▲2.3	▲0.5	▲1.3		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】生産指数は低下も基調判断は「持ち直しの動き」に据え置き

2022年1月の生産指数は前月比▲1.3%と2カ月連続で低下し、市場予想（同▲0.7%、Bloomberg調査）を下回った。世界的な半導体不足や国内での新型コロナウイルス流行による部品調達難を背景に、自動車工業が大幅減産となった。他方、その他の多くの業種は上昇した。このところは自動車の追加減産などにより生産指数の回復が足踏みしているが、その他の業種は堅調に推移している。経済産業省は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中5業種が前月から低下、10業種が上昇となった。自動車工業（前月比▲17.2%）が全体を2.7%pt押し下げた。2番目に押し下げ幅の大きかった鉄鋼・非鉄金属工業（同▲3.2%）は小幅減にとどまっており、1月の生産指数の低下の大部分は自動車の減産によるものである。他方、電子部品・デバイス工業（同+10.4%）ではモス型半導体集積回路（メモリ）などが、生産用機械工業（同+4.9%）では金型などが増加した。

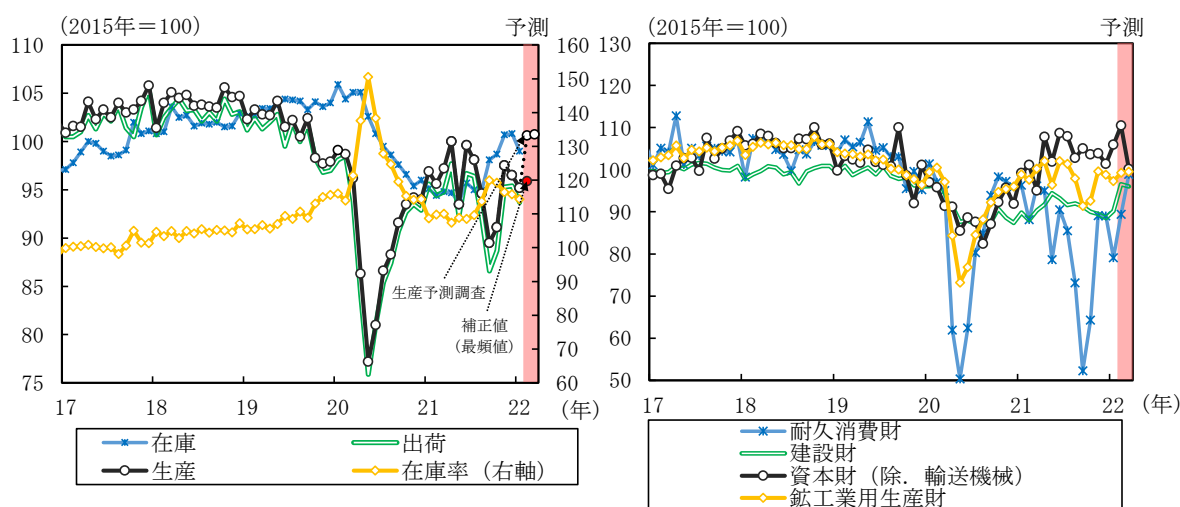
財別では、耐久消費財（前月比▲11.1%）や生産財（同▲1.2%）が低下した一方、資本財（除、輸送機械）（同+4.4%）、非耐久消費財（同+2.4%）、建設財（同+1.9%）は上昇した。

【出荷・在庫】在庫率指数は改善が継続

1月の出荷指数は前月比▲1.8%と4カ月ぶりに低下した。業種別では15業種中7業種が低下しており、生産と同様に自動車工業が全体を押し下げた。他方、生産用機械工業や石油・石炭製品工業、電子部品・デバイス工業などは上昇した。財別では耐久消費財や生産財が低下した一方、資本財（除、輸送機械）、建設財、非耐久消費財は上昇した。資本財（除、輸送機械）は大幅に上昇しており、発電機などに用いられる一般用蒸気タービンの出荷が急増した。

在庫指数は前月比▲1.8%と5カ月ぶりに低下した。減産を背景に自動車工業の在庫が減少した。在庫率指数は同▲1.3%と4カ月連続で低下しており、需給バランスの改善を示唆している。

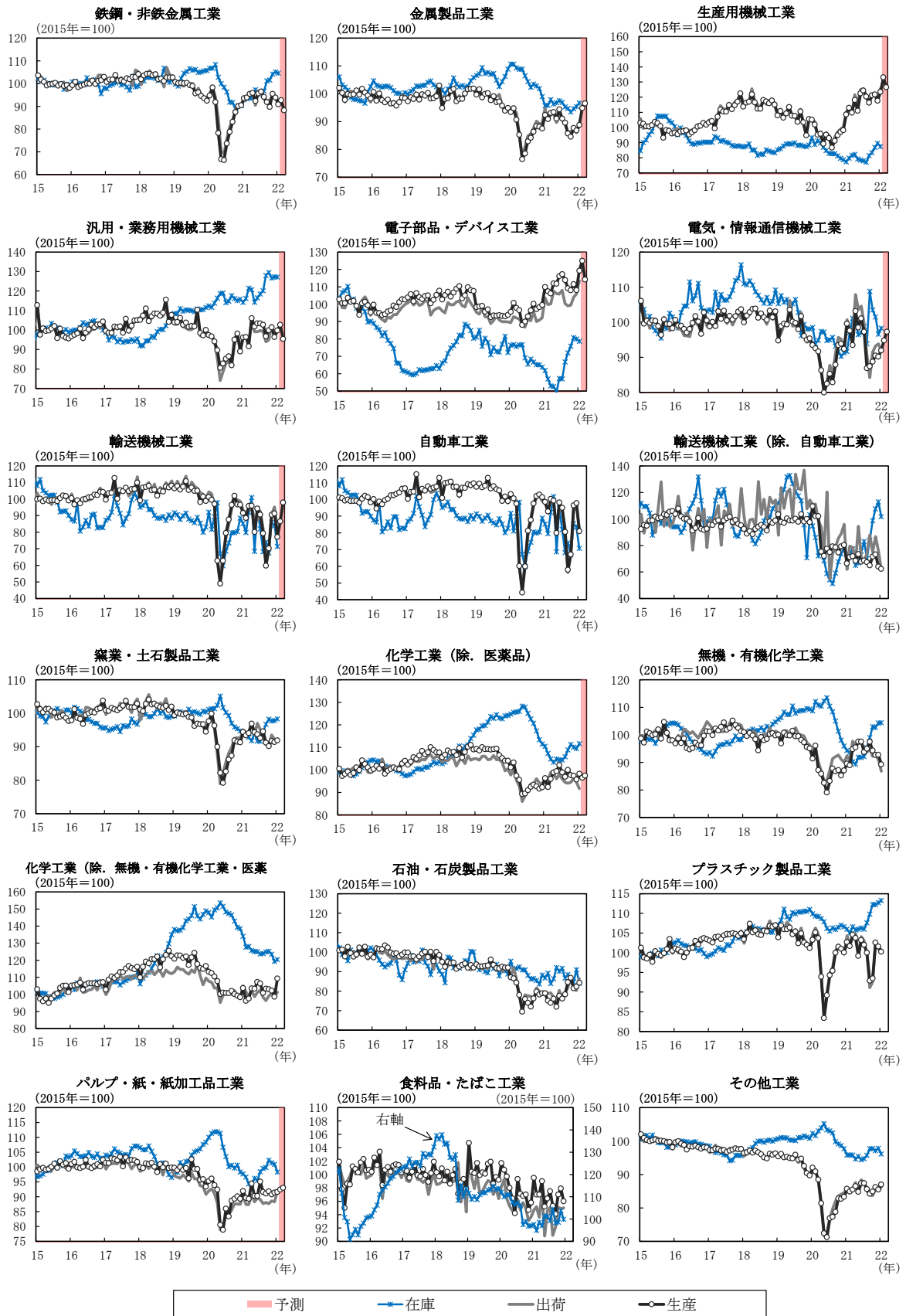
図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值（最頻値）。そのほかシャド一部分の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。
 (注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】2月は自動車減産の影響が緩和も3月以降の生産指数は鈍い回復に

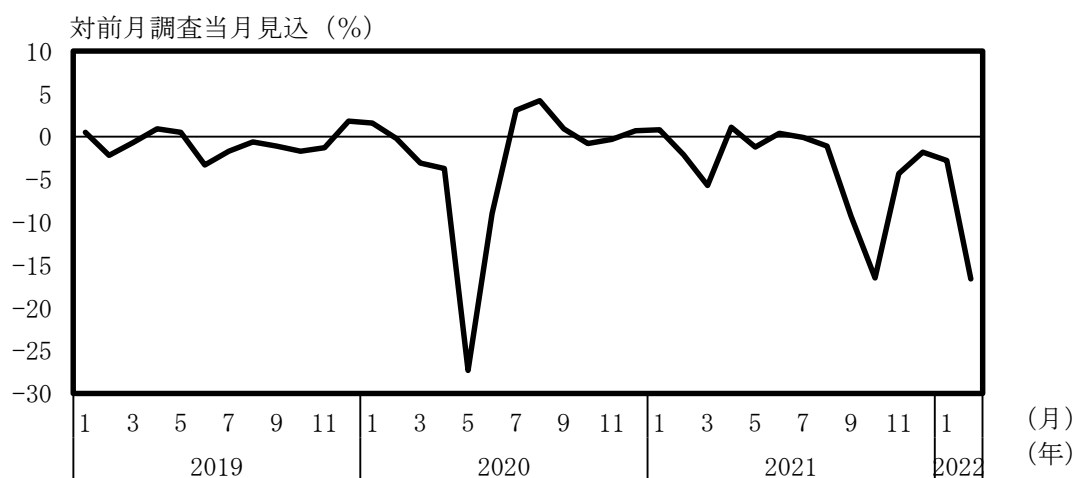
先行きの生産指数は、均して見れば自動車減産の影響で緩やかな増加にとどまるとみている。自動車メーカー最大手であるトヨタ自動車の2月9日の決算資料によれば、2月は1月時点の見通しから追加的な減産予定が示されなかった一方、3月は半導体不足によって再び減産を余儀なくされるという。半導体不足の解消は2022年後半以降になるとみられており¹、当面はこうした断続的な半導体不足の影響により、自動車などの挽回生産が抑制されるとみている。また自動車産業は裾野が広いことから、国内工場の稼働停止に伴って、鋼板やエンジンなどの部品にとどまらず資本財の生産や出荷の減少を招く可能性がある。

他方、米国や欧州の一部の国など、感染拡大がピークアウトした地域向けの輸出関連財が全体を下支えしよう。経済活動の再開によって需要が高まりやすい資本財や、需要が高止まりしている半導体関連財などの生産が堅調に推移するとみている。

製造工業生産予測調査によると、2月は前月比+5.7%（計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+0.7%）と見込まれている。業種別では、輸送機械工業（同+12.3%）や生産用機械工業（同+7.8%）、電子部品・デバイス工業（同+4.8%）など11業種中9業種が増産の計画である。このところ自動車の生産水準は計画から大きく下振れすることが多かったが（**図表4**）、上述したトヨタ自動車の例などに鑑みれば、2月の下振れは比較的軽微にとどまるとみられる。

3月は前月比+0.1%となる見通しだ。輸送機械工業（同+13.1%）で高い伸び率が継続する見込みである。ただし、製造工業生産予測調査の回答期限が2月10日であったため、2月中旬にトヨタ自動車やホンダなどが相次いで3月の減産を発表した分は含まれていない。2月の生産指数が計画通りの水準となった場合、自動車の減産計画を加味すれば、3月の生産指数は前月比マイナスに転じる可能性が高い。

図表4：輸送機械工業の生産の実現率（季節調整値）



（出所）経済産業省統計より大和総研作成

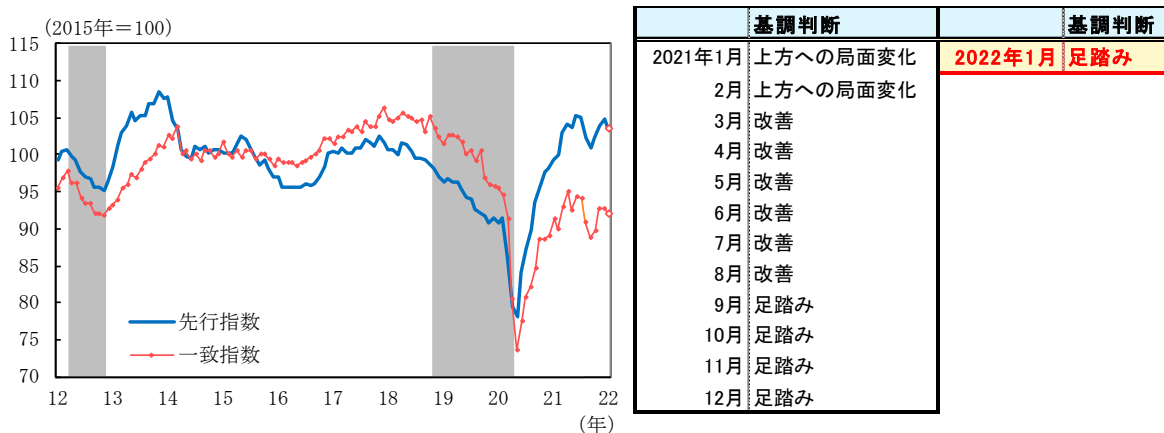
¹ 詳細は拙稿「[2022年1月貿易統計](#)」（大和総研レポート、2022年2月17日）を参照。

【1月景気動向指数】一致CIは低下が続き基調判断は「足踏み」に据え置きか

鉱工業指数の結果を受け、3月8日公表予定の1月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲1.2ptの103.6、一致CIが同▲0.6ptの92.1（3月2日に公表予定の法人企業統計、3月4日に公表予定の一般職業紹介状況の結果次第では変更の可能性あり）と予想する（**図表5**）。先行CIでは構成指標のうち、中小企業売上げ見通しDIや消費者態度指数などが悪化した。また一致CIでは構成指標のうち、耐久消費財出荷指数や鉱工業用生産財出荷指数などが悪化した。この予測値に基づくと、一致CIによる基調判断は機械的に「足踏み」に据え置かれる。

先行きの経済活動は3月から持ち直すとみている。1月から2月中旬にかけては、国内でのオミクロン株の流行を背景に人出が大幅に減少した。個人消費が抑制されただけでなく、感染者や濃厚接触者の急増による出勤停止措置などにより、企業活動にも大きな影響が及んだとみられる。3月以降は、新規感染者数の減少などを背景に、こうした状況が徐々に改善するだろう。なお、3回目のワクチン接種の本格化から間もないことなどから、足元の新規感染者数の減少ペースは緩やかなものとなっている。足元では、3回目のワクチン接種回数が政府の目標である1日当たり100万回を超えていることから、今後はこの接種ペースを維持・加速できるかどうかで感染動向のカギを握るだろう。

図表5：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移

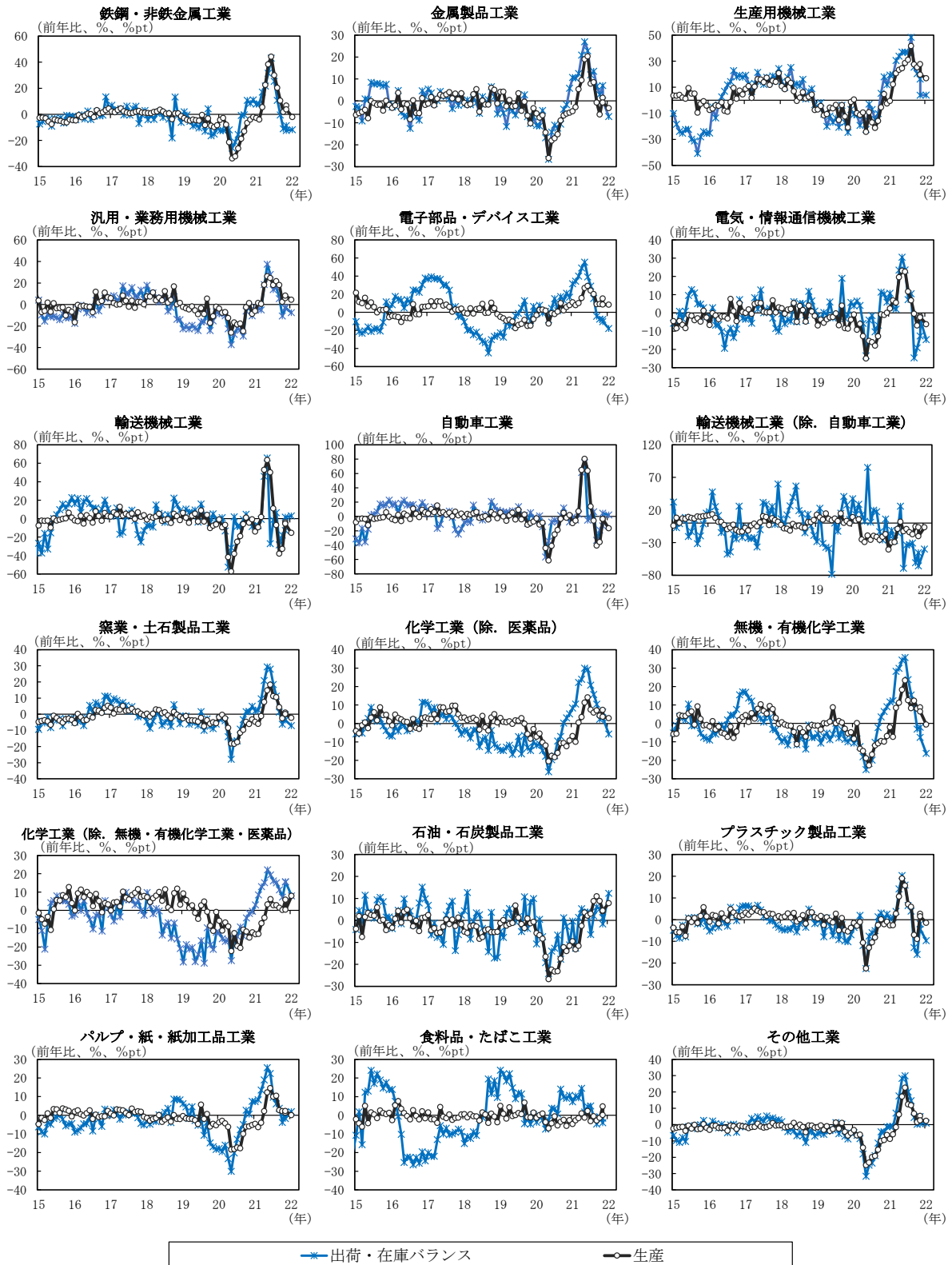


(注1) 左図の直近は大和総研による予測値。右図の2022年1月の基調判断は大和総研予想。

(注2) シャドローは景気後退期（直近は暫定）。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



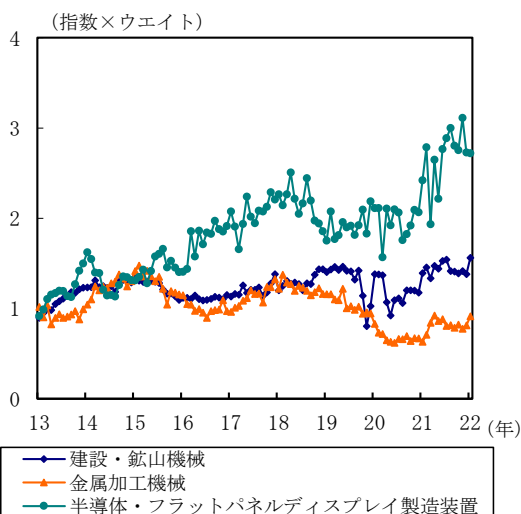
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

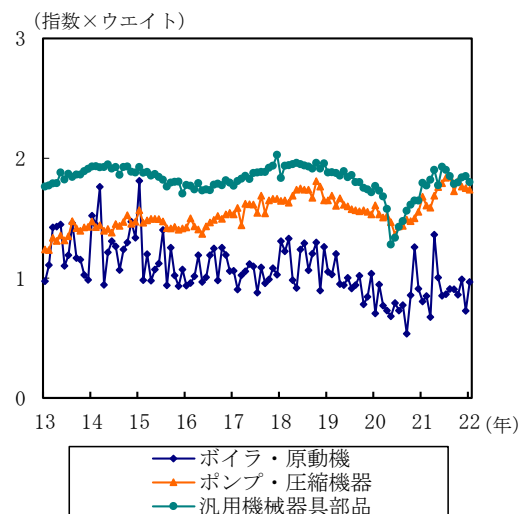
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

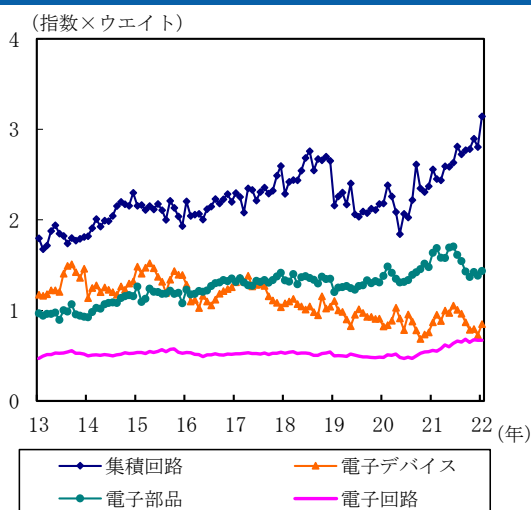
生産用機械



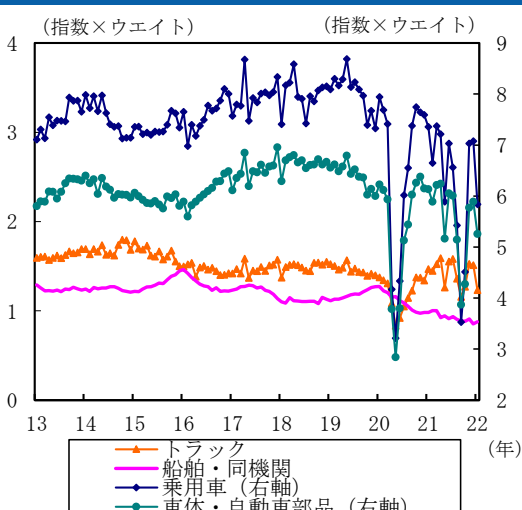
汎用・業務用機械



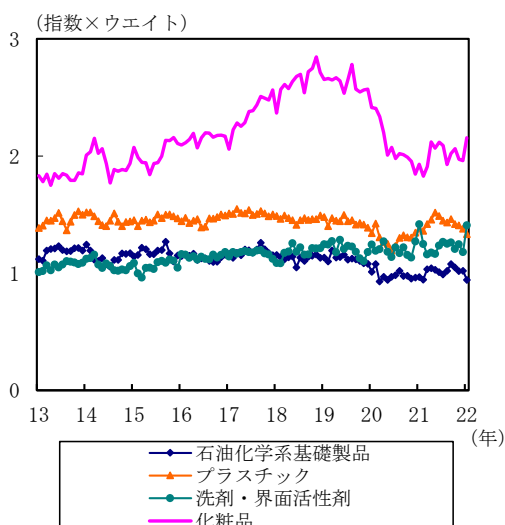
電子部品・デバイス



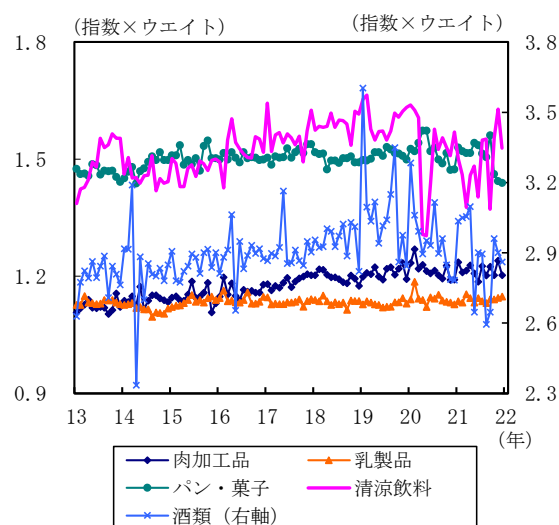
輸送機械



化学



食品・たばこ工業



(注) 食品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成